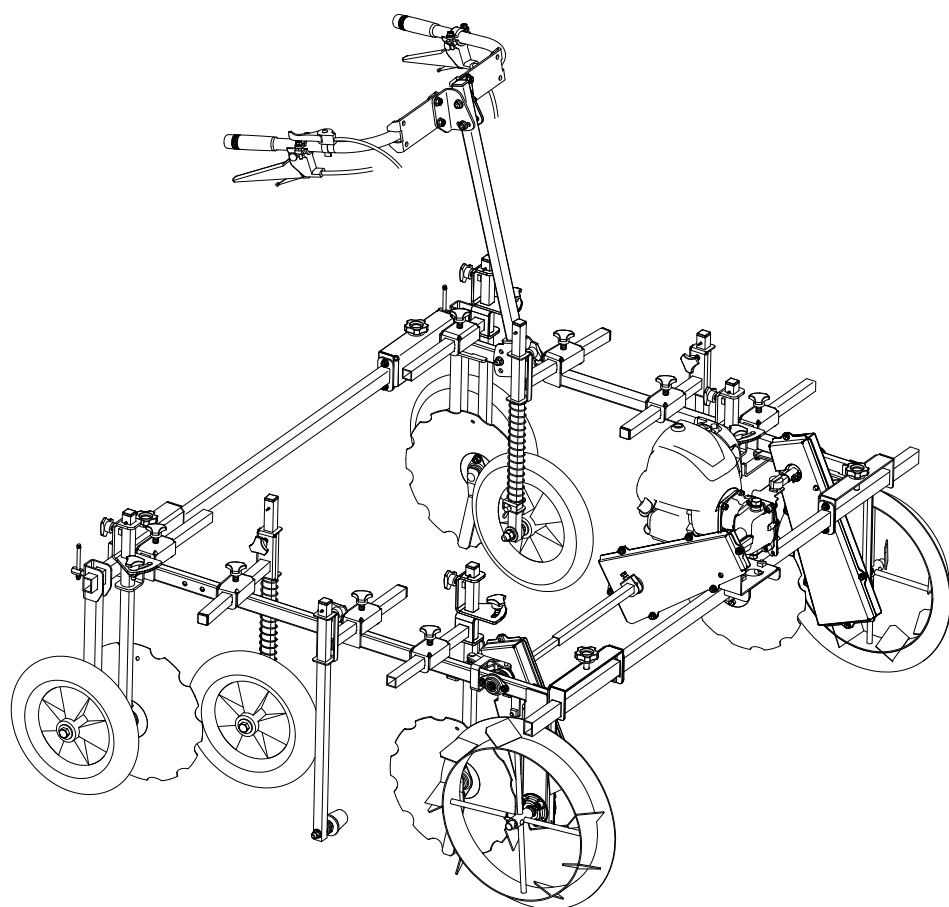


使用する前に必ずよく読んで正しく使いましょう

# MYD-11A 動力マルチ張り機

## MYD-11A

### 取扱説明書



## 《重要》 安全ポイント

1. 燃料を補給するときは、  
必ず **エンジンを停止** し **火気厳禁** とします。

---

2. エンジン始動時には、  
必ず **サイドクラッチレバーを「切」** にします。

---

3. 作業中は、  
**機械の周りに人を近づけない** ようにします。

---

4. 補助者と共同作業をおこなうときは、  
**合図をし安全を確認** します。

---

5. 機械を点検・調整するときは、  
必ず **エンジンを停止** します。

---





この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくために守っていただきたい重要な安全ポイントは上記の通りですが、これ以外にも本文の中で守っていただきたい事項に **▲** を付けて説明しております。

よくお読みいただき、必ず守っていただくようお願いいたします。

# はじめに

- このたびは、本機をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
- 本機は、農業用マルチフィルムを張るための機械です。
- 使用目的以外の作業や改造はしないでください。
- 本書は、製品の正しい取り扱い方法と点検、整備について説明しています。
- ご使用される前には本書を必ずお読みいただき、正しく安全にご使用ください。
- 本書は大切に保管し、本機を貸与または譲渡される場合は、相手のかたに本書の内容を十分理解していただき、本書を本機に添付してお渡しくください。
- 本書に従った製品の正しい取り扱いや、点検・保守をしていただくことを推奨します。注意事項に従わず何らかの損害が発生した場合、保証の対象外になるためご注意ください。
- 本書を紛失または損傷された場合は、すみやかにお買い上げいただいた販売店にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上の観点から、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、本書の内容およびイラストなどの一部が本機と一致しない場合もありますが、ご了承ください。
- 本書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について次のように表示しています。

表示	重要度
 <b>危険</b>	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。
 <b>警告</b>	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しています。
 <b>注意</b>	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しています。
 <b>重要</b>	この項目に従わなかった場合、物的損害をこうむるおそれのあるものを示しています。 また、商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しています。よく読んで商品の性能を最大限発揮してご使用ください。

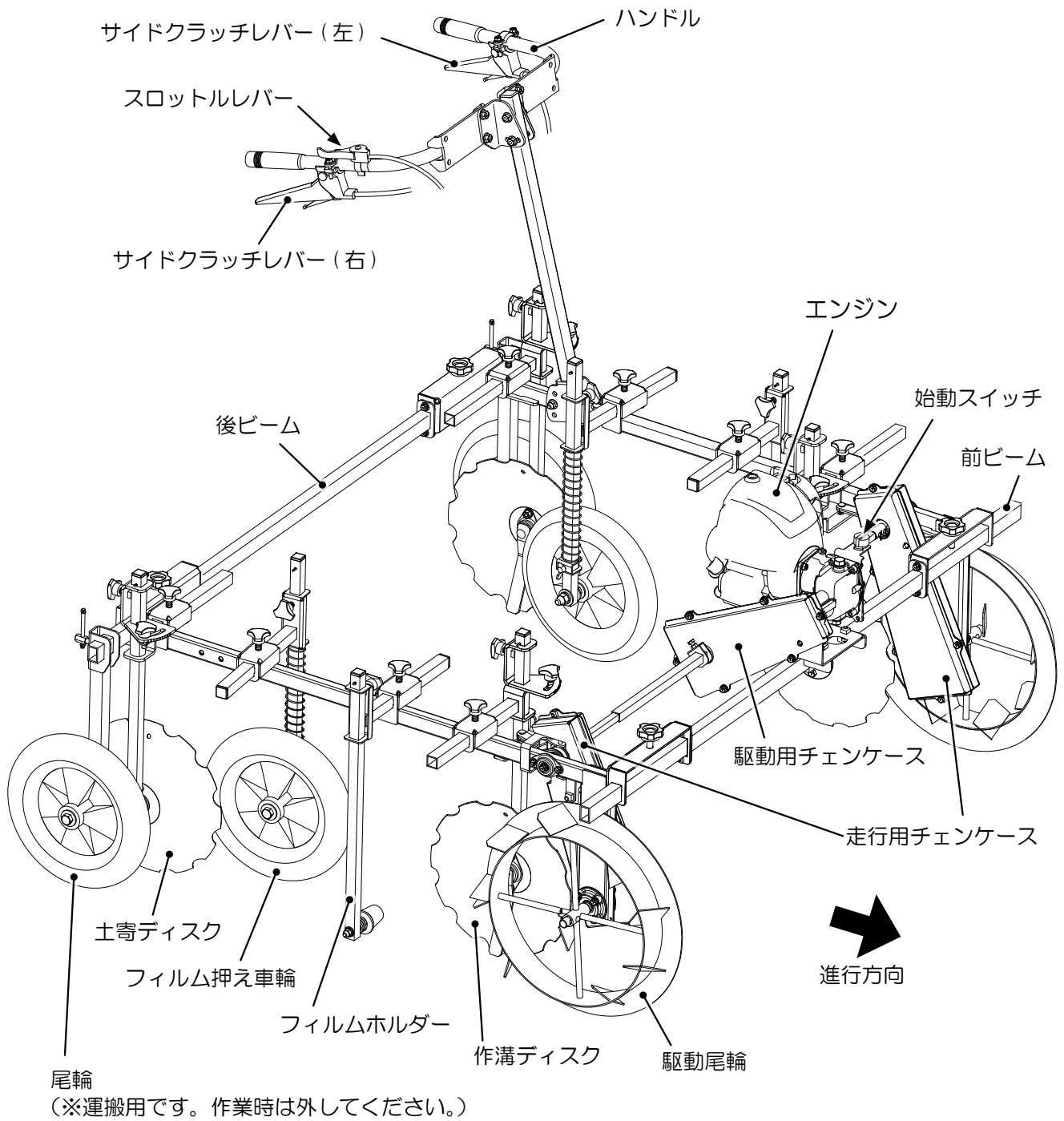
ご不明な点がございましたら、ご遠慮なくお買い上げいただいた販売店にご相談ください。

# 目次

各部の名称とはたらき	1	点検整備	16
各部の名称	1	点検整備一覧表	16
各部のはたらき	2	点火プラグ・エアリーナの点検	16
		燃料フィルターの点検	17
安全のポイント	4	サイドクラッチワイヤの点検	17
安全な作業をするために	4	スロットルワイヤの点検	17
安全表示ラベルについて	6		
安全表示ラベル貼付位置	6	サービス資料	18
		主要諸元	18
作業前の点検	7	オプション部品	18
エンジンオイルの点検・補給	7	商品の保証	19
減速ミッションオイルの点検・補給	7	サービスネット	19
注油箇所の点検	8	補修用部品供給期間	19
運転のしかた	9		
エンジンの始動と停止	9		
作業の進め方	10		
準備作業	10		
(1) 機械幅の調節	11		
(2) フィルムホルダーの調節	12		
(3) 作溝ディスクの調節	13		
(4) フィルム押え車輪の調節	13		
(5) 土寄ディスクの調節	13		
作業の手順	14		
作業が終了したら	15		

# 各部の名称とはたらき

## 各部の名称



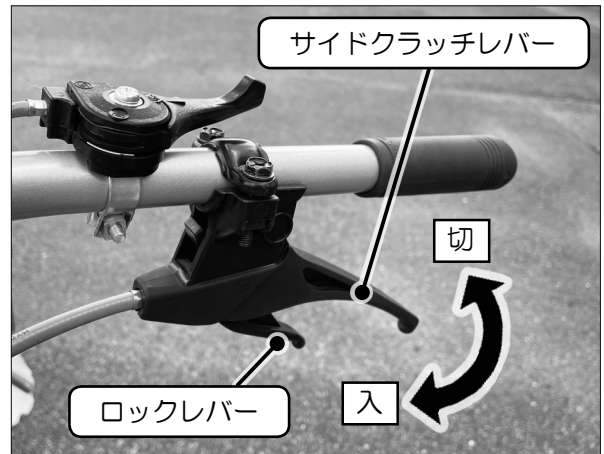
※付属品は、18 ページの「主要諸元」に記載しています。

## 各部のはたらき

### ■ サイドクラッチレバー（左右2箇所）

【左を握る】左の駆動車輪のクラッチが切れます。

【右を握る】右の駆動車輪のクラッチが切れます。



#### ⚠ 注意

エンジンを始動するときは、必ず左右のサイドクラッチレバーを「切」にしてください。これを守らないと、機械が急発進して傷害事故を引き起こすおそれがあり大変危険です。

#### 重要

サイドクラッチレバーとロックレバーを一緒にカチッと音がするまで握ると、「切」の状態でもロックされます。ロックレバーを握れば「入」になります。

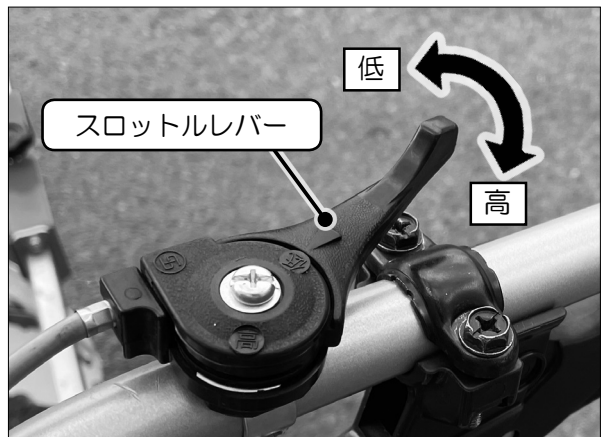
### ■ スロットルレバー

【低】走行が止まります。（遠心クラッチが切れます。）

【高】走行速度が速くなります。

#### ⚠ 注意

この機械は遠心クラッチ式のため、非常時にはスロットルレバーを「低」にしてください。サイドクラッチレバーなどでの操作は、傷害事故を引き起こすおそれがあり大変危険です。



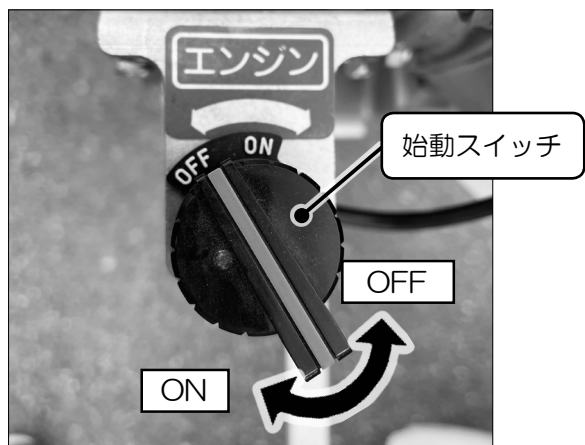
### ■ 始動スイッチ

【ON】 エンジン始動が可能です。

【OFF】 エンジンが停止します。

#### ⚠ 注意

エンジン停止の際は、確実に「OFF」の位置にしてください。  
機械から離れる場合は、必ずエンジンを停止しておいてください。

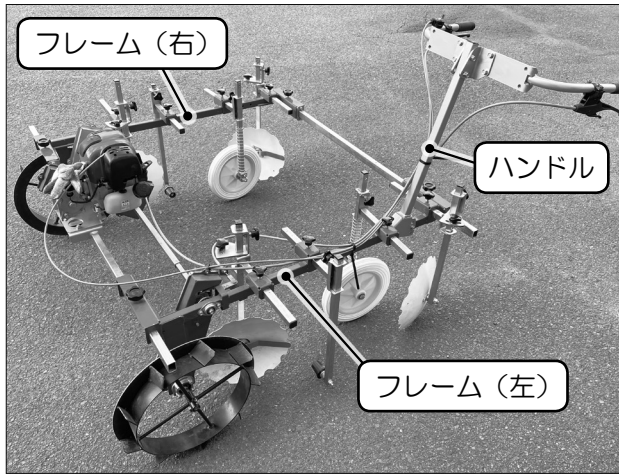


# 各部の名称とはたらき

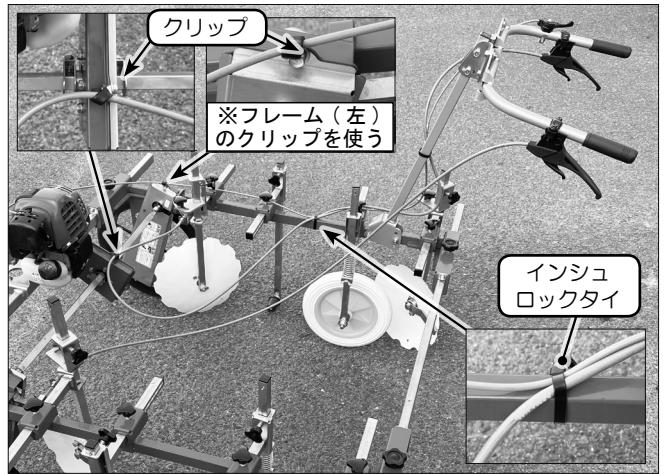
## ■ ハンドル

(1) 取付位置 … ハンドルをお好みでフレーム（左）かフレーム（右）に取り付けできます。

【フレーム（左）に取り付ける】



【フレーム（右）に取り付ける】



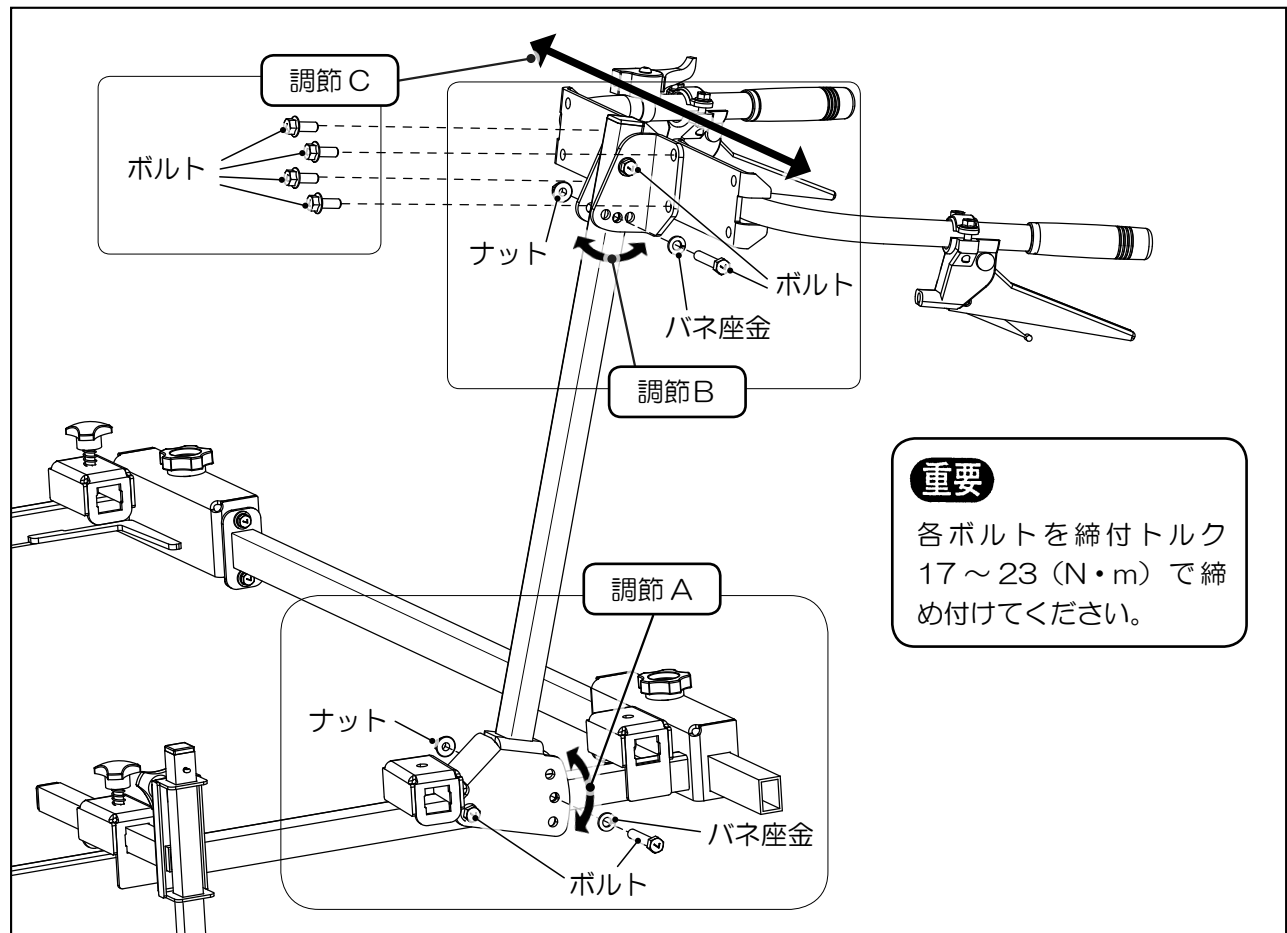
※ハンドルと各ワイヤーの取付方法の詳細は、「組立要領書（付属品）」をご参照ください。

・インシュロックタイとクリップ2箇所、各ワイヤーを無理のないように束ねます。各ワイヤーが、回転部やエンジン排気口に接近しないように注意してください。

(2) 角度・高さ・左右位置 … ハンドルをお好みの角度・高さ・左右位置に調節できます。

【角度・高さを調節する】 調節Aと調節Bでお好みの穴にボルトを通し、角度と高さを調節します。

【左右位置を調節する】 調節Cで「左側」・「中央」・「右側」のいずれかの位置に調節します。



# 安全のポイント

## 安全な作業をするために

本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行なってください。

### ■ 運転者の条件

#### (1) はじめに

作業を始める前に、この『取扱説明書』をよく読むことから始めてください。これが安全に快適な作業をするための第一歩です。

#### (2) 体調について

飲酒時や過労ぎみの時は、作業しないでください。このような時に作業を行なうと、誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。必ず心身とも健康な状態で作業してください。

#### (3) 服装について

作業する時は、作業に合わせた服装をしてください。服装が悪いと、衣服が回転部などに巻き込まれたりして大変危険です。また、裸足での作業は絶対にしないでください。作業靴で作業してください。守らなかった場合、足をケガするおそれがあり危険です。

#### (4) 人に機械を貸す時は

機械を貸す時は取扱方法をよく説明し、使用前に『取扱説明書』を熟読するように指導してください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こすことがあります。

### ■ 作業を開始する前に

#### (1) 無理のない作業計画で

無理・無駄のないゆとりある計画を立てましょう。無理な作業計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。

#### (2) 日常点検について

作業する前に、必要な点検・注油は必ず行なってください。怠ると走行中や作業中の思わぬ事故につながります。

#### (3) 安全カバー類の装着確認

機械を運転する前に、安全カバー類が外されたままになっていないか確認しましょう。外れたまま作業すると、危険な部分が露出して大変危険です。

#### (4) 燃料補給時は火気厳禁

燃料を補給する際は、エンジンを必ず停止し、くわエタバコなどは絶対しないでください。機械のまわりに火の気を近づけず、火気厳禁で燃料を補給してください。守らなかった場合、火災の原因になります。

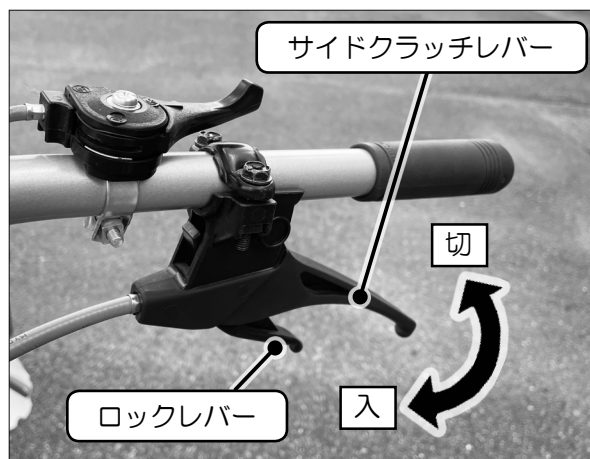
### ■ エンジンの始動と発進

#### (1) 室内では十分に換気を

室内でエンジンを運転する時は、窓や戸を開けて十分に換気してください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。

#### (2) エンジンの始動は周囲を確認してから

エンジンを始動する時は、左右2箇所のサイドクラッチレバーを必ず『切』にし、周囲の安全を十分に確認してから行なってください。確認を怠ると、急発進したりして大変危険です。



エンジンを始動する場合は、エンジンやマフラーなどの上や回りに、ゴミや燃えやすいものが無いことを十分確認してください。確認を怠ると、火災の原因になります。

#### (3) 急発進は、危険

発進する時は、周囲の安全を確認して、ゆっくり発進してください。急発進すると、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

### ■ 作業中は

(1) 作業中は、回りの人に注意（特に子供）  
作業中は、作業員以外の方は機械に近づかないでください。機械自体や、作業による飛散物などで、傷害事故を引き起こすおそれがあり危険です。

### (2) 作業開始時は、声かけあって

作業を開始する時は、周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業する時は、声をかけ合って行なってください。怠ると傷害事故の原因になり大変危険です。

### (3) 回転部・過熱部には手を触れない

作業中は、絶対に回転部やエンジン・マフラーなどの過熱部には手を触れないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。

### (4) アユミ板を使ってほ場の出入り

畦（あぜ）の高度が高いほ場では、出入りの際に必ずアユミ板を使用してください。使用しなかった場合は、衝撃で機械を損傷したり、横転事故のおそれがあり大変危険です。

### (5) 機械から離れる時は

機械から離れる時は、必ずエンジンを停止し、サイドクラッチレバーを『切』にしてください。止める場所は平たんな所で、地面が硬い広い場所を選んでください。機械が自然に動き出したりして大変危険です。

下に草やワラがある場所や、燃えやすいものの近くには機械を置かないでください。マフラーなどの熱で発火するおそれがあり、火災の原因となります。

### ■ 点検・整備時は

#### (1) 定期点検について

取扱説明書に従って定期点検を実施しましょう。これは、機械を長持ちさせるとともに、安全で効率的な作業が行なえる第一歩です。

#### (2) 点検・整備は、明るく広い所で

点検・整備は、明るく広い所で行なってください。暗く狭い所で行なっていると、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

#### (3) 点検・整備は、エンジンを止めて

点検・整備を行なう時は、必ずエンジンを停止してから行なってください。怠ると回転部などに手や衣服が巻き込まれて大変危険です。

#### (4) 点検・整備は、適正な工具で

点検・整備を行なう時は、適切な工具を正しく使用してください。まにあわせの工具で行なうと、整備中の傷害事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こすおそれがあり大変危険です。

#### (5) 過熱部分は冷めてから

エンジンを切つてすぐには、点検・整備をしないでください。エンジン・マフラーなどの過熱部分が完全に冷めてから行なってください。怠るとやけどなどの原因になり危険です。

#### (6) 回転部には注意して

点検・整備を行なう場合は、回転部に手や指を挟まれないように、特に注意してください。これを怠ると傷害事故の原因になり危険です。

#### (7) 機械の改造は厳禁

指定以外のアタッチメントの取り付けや改造は、絶対にしないでください。機械の故障の原因になるばかりでなく、思わぬ事故の原因になり大変危険です。

#### (8) カバー類は元通りに

点検・整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。外したままで使用しますと、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となり大変危険です。

### ■ 格納・保管時は

#### (1) カバーは機械が冷えてから

作業が終了してシートカバーなどを機械に掛ける時は、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類を掛けると、火災の原因となり大変危険です。

#### (2) 燃料の抜き取り

長期格納する場合は、燃料タンクや気化器内の燃料を抜き取っておいてください。燃料が変質し機械の故障の原因になるばかりでなく、引火などで火災の原因になり大変危険です。

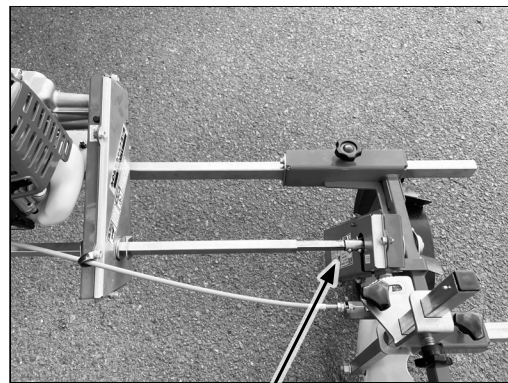
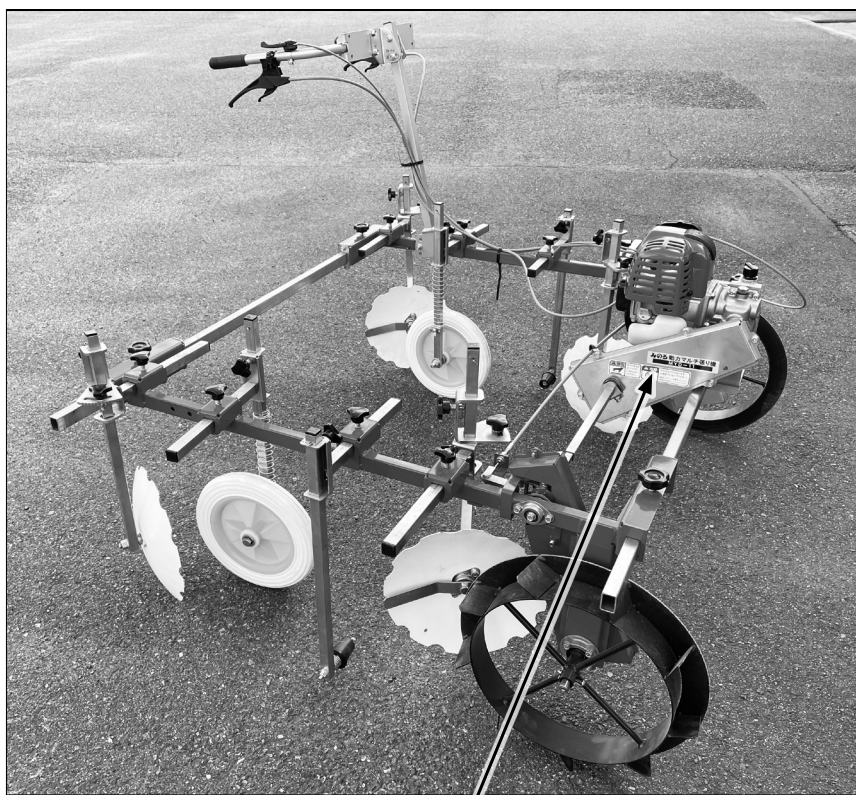
#### (3) 格納・保管は、明るく広い所に

格納・保管場所は、明るく広い所に行なってください。暗く狭い所に保管していると、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

## 安全表示ラベルについて

- 本機には、安全に作業していただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。
- 安全表示ラベルが破損したり、なくなったり、読めなくなった場合は、新しいラベルに貼りかえてください。
- 泥などがついた場合は、きれいにふきとり、いつでも読めるようにしてください。
- 安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合、同時に安全表示ラベルもお買いあげいただいた販売店にご注文ください。

## 安全表示ラベル貼付位置



	<p><b>注意</b> 使用前に必ず取扱説明書をよく読んでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機械から離れる時はエンジンを止めてください。</li> <li>2. 非常時にはスロットルレバーを「低」にしてください。</li> </ol>		<p><b>注意</b> ケガや破損のおそれがあります。</p> <p>エンジン始動時には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 走行クラッチレバーをロックしてください。</li> </ol> <p>チェーンおよびスプロケット部には、手を近づけないでください。</p>
--	---	--	---

PWE121-6105

PWE121-6105 (運転操作警告マーク)

	<p><b>警告</b> やけどをするのでマフラーにさわらないでください。</p>		<p><b>危険</b> 引火のおそれがあります。火を近づけないでください。</p> <p>○燃料にはガソリンを使用してください。</p> <p>○給油中は必ずエンジンを止めてください。</p>
--	---	--	---

PWE121-6111

PWE121-6111 (火気厳禁警告マーク)

### 重要

エンジンの安全な取り扱いについては、必ず付属のエンジン取扱説明書をよく読んでご確認の上、その注意に従ってください。

# 作業前の点検

## エンジンオイルの点検・補給

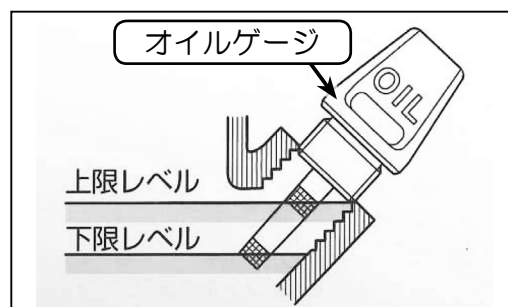
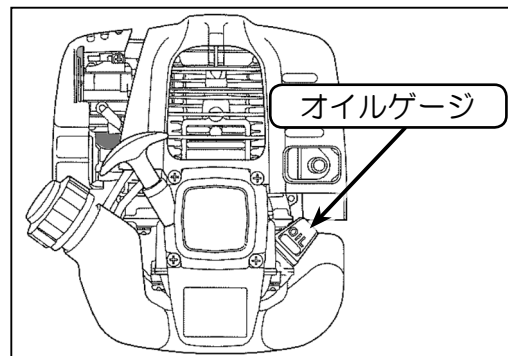
1. エンジンを水平にして、オイルゲージを外します。
2. オイルゲージを見て、[下限レベルと上限レベルの間]にオイルがあるか点検します。[下限レベル]以下の場合は、新しいオイルを補給してください。
3. オイル漏れがないかも調べてください。

《オイル容量》 0.08L

《推奨オイル》 API分類SF級以上の  
SAE10W-30

### 重要

[上限レベル]以上にオイルを補給しないでください。



## 減速ミッションオイルの点検・補給

### 注意

オイルの点検・補給は、エンジンを停止し十分冷えてから行なってください。  
これを怠ると、やけどをするおそれがあります。

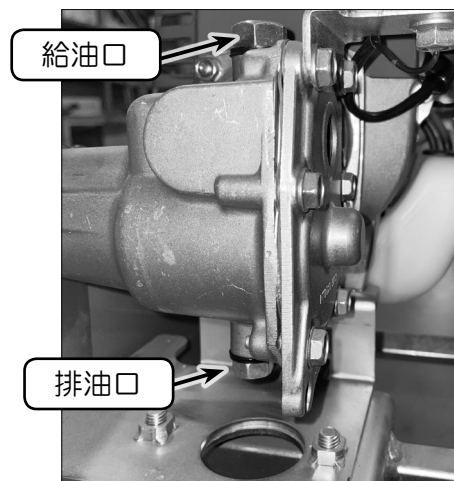
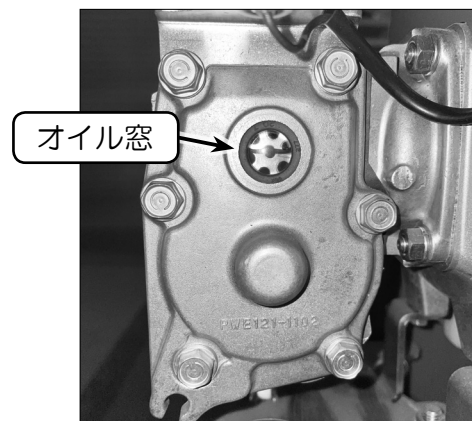
1. 機体を水平な場所に置きます。
2. オイルがオイル窓の中央まで入っていることを点検してください。
3. オイルが不足している場合、減速ミッションの上側の給油口のネジを外し、オイル窓の中央までオイルを補給してください。

《オイル量》 約0.18L

《オイルの種類》 ギヤーオイル #90

### 【オイル交換のしかた】

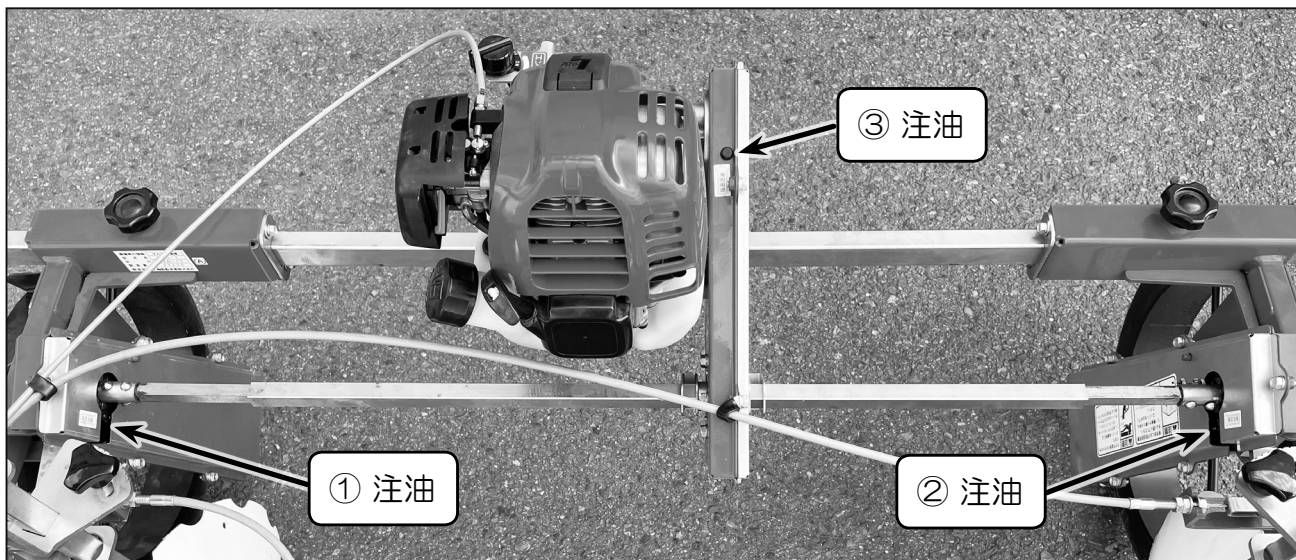
1. 減速ミッションの下側の排油口のネジを外し、オイルを抜いてください。
2. 排油口のネジを締付後、給油口のネジを外し、オイル窓の中央までオイルを給油してください。
3. 給油後は、給油口のネジを締めてください。



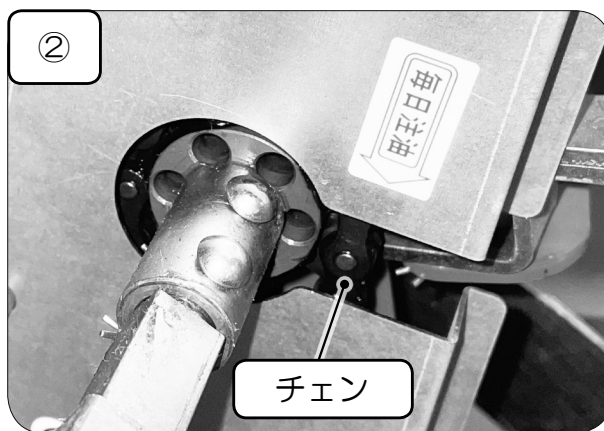
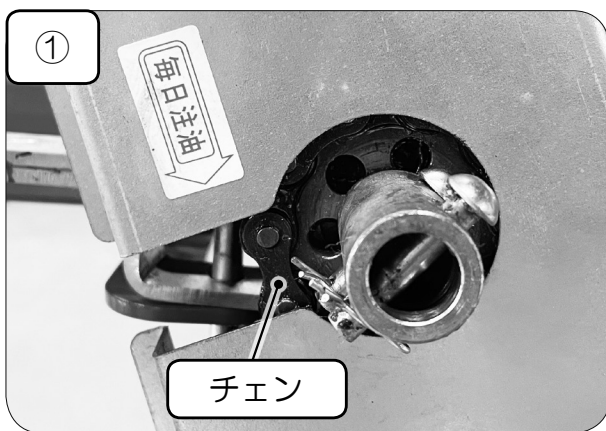
## 注油箇所の点検

- ・作業前に下図の3箇所（チェン駆動部）を点検し、グリス・油を注油してください。

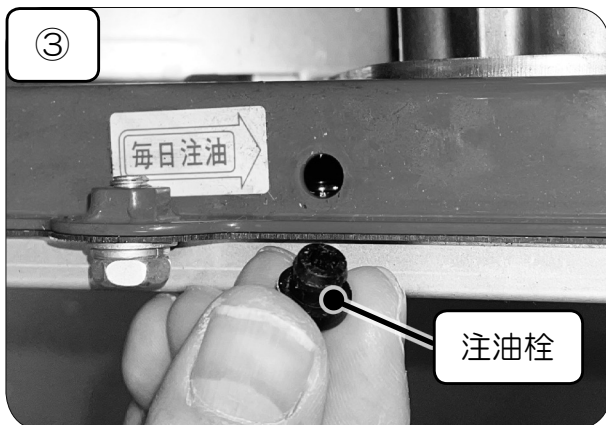
（注油時期） 毎日か作業前ごと



- ・チェンに注油してください。



- ・注油栓を外し、穴からチェンに注油してください。注油後、元に戻してください。



# 運転のしかた

## エンジンの始動と停止

**重要**

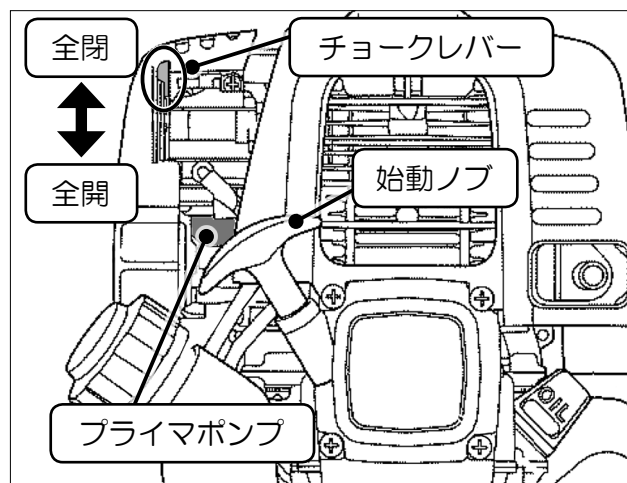
同梱されている付属のエンジン取扱説明書を十分お読みいただき、よく理解してから安全に作業してください。

### ■ エンジンを始動する前に

- 始動する前に、周囲の安全を確かめてから作業に入ってください。
- エンジンなどに異常があったときは、直ちに始動スイッチを「OFF」にしエンジンを停止させ、点検を行なってください。
- 燃料は、普通の自動車用レギュラーガソリンを使用します。  
燃料が古いとエンジントラブルの原因となりますので、新しい燃料を使用してください。

### ■ 始動のしかた

1. 始動スイッチを「ON」にします。
2. プライマポンプを3～4回押します。
3. スロットルレバーを「低」にします。
4. チョークレバーを「全閉」にします。
5. 始動ノブを勢いよく引きます。
6. 始動後、徐々にチョークレバーを「全開」に戻し、1～2分ほど暖機運転をします。



### ■ 停止のしかた

#### 《通常時の停止のしかた》

1. スロットルレバーを「低」の位置にします。
2. 始動スイッチを「OFF」にして停止します。

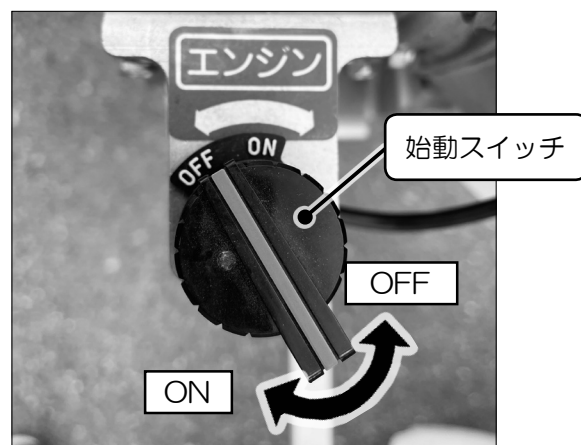
#### 《緊急時の停止のしかた》

- 始動スイッチを「OFF」にして停止します。



### ⚠ 注意

エンジン付近は、熱くなります。  
手などでふれないように注意してください。  
これを怠ると、やけどするおそれがあります。



# 作業の進め方

安全には十分に注意して、次の要領で作業を進めてください。

## ⚠ 注意

(準備中)

- ・マルチフィルムを取り付けする場合、必ずエンジンを停止してください。怠ると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

(作業中)

- ・急に機械が停止したり異常音に気づいた時は、必ずエンジンを停止してからその原因を調査し、正常な状態に戻した後に作業を再開してください。
- ・回転部や過熱部には手を触れないでください。守らないと傷害事故の原因となり大変危険です。
- ・作業員以外の人は機械に近づかないでください。特に小さなお子様には十分注意してください。

## 準備作業

・手順(1)～(5)に従い、マルチフィルムの幅に合わせて各部を調節してください。

・参考に調節イメージを(図1)・(図2)に示します。また、各部の機能を以下に示します。

### 【作溝ディスク】

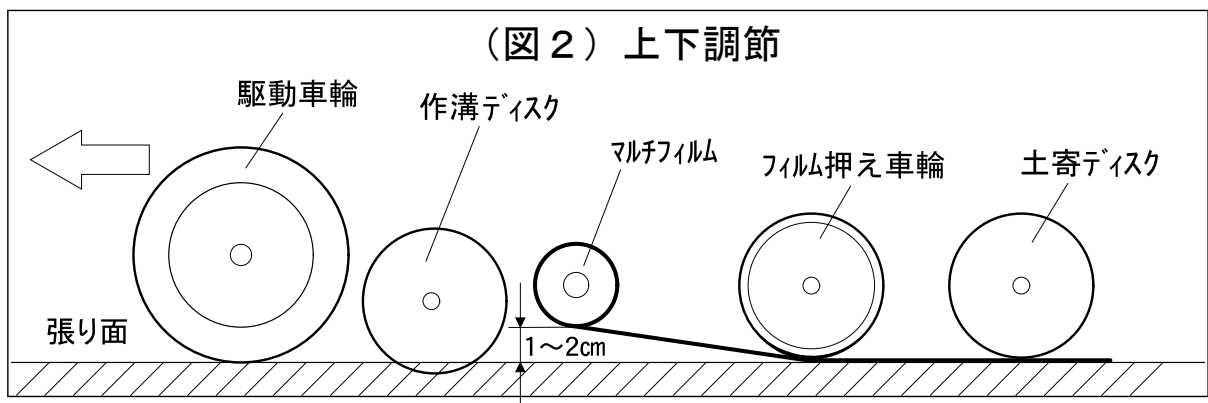
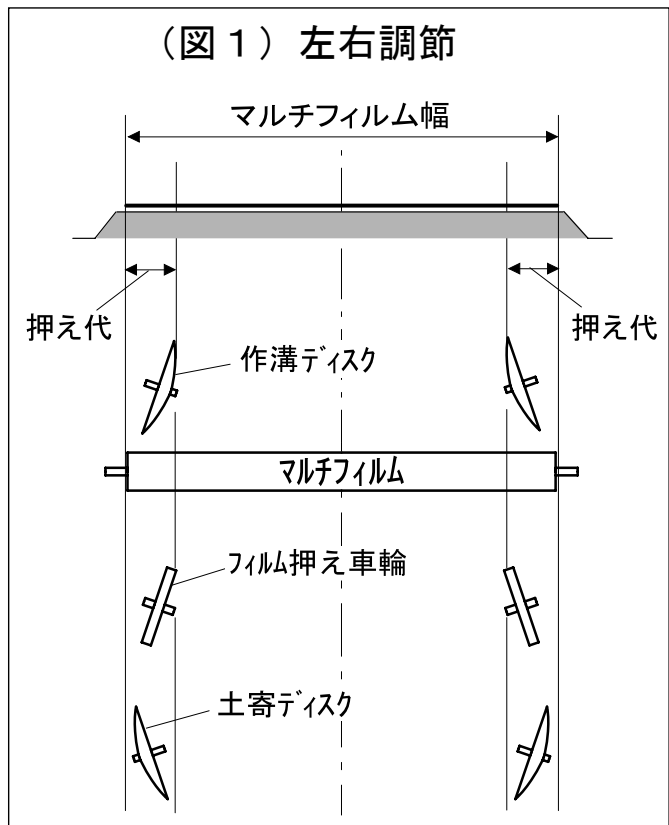
・マルチフィルムにのせる土を、畝の側面部から寄せてきます。

### 【フィルム押え車輪】

・マルチフィルムを地面(張り面)に押し付け、土をのせやすくします。

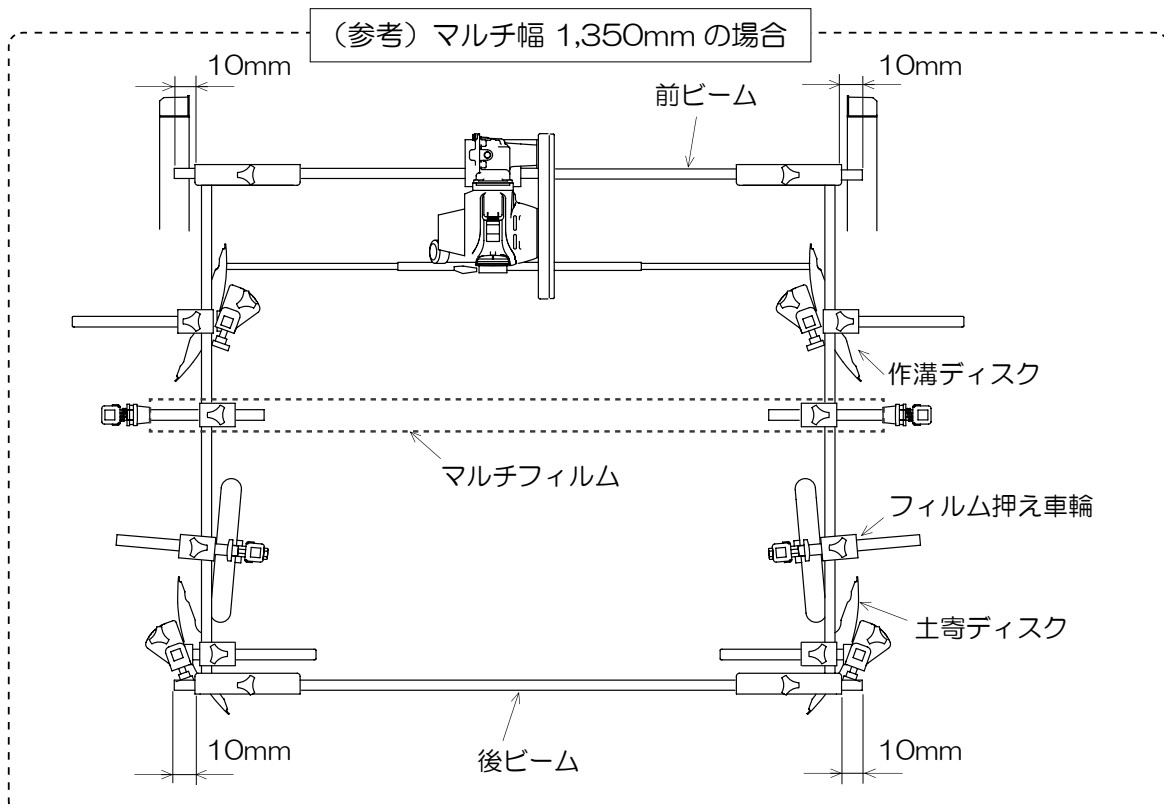
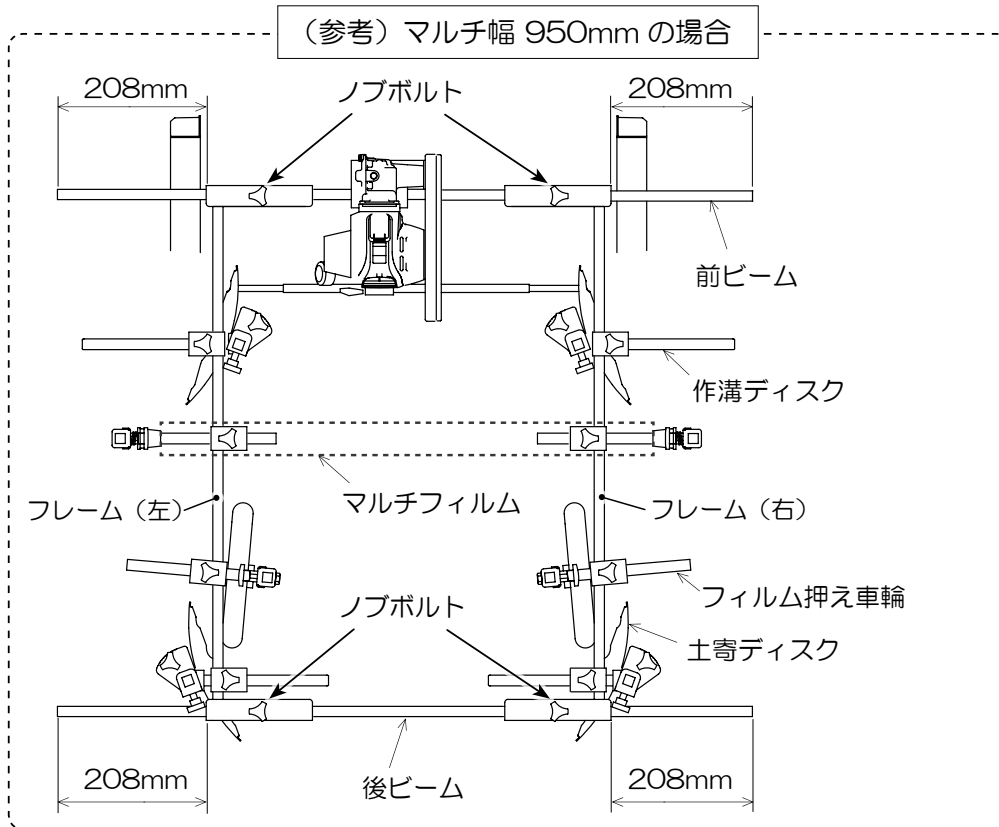
### 【土寄ディスク】

・作溝ディスクが寄せてきた土をマルチフィルムの上のせて、風でとばないようにします。



## (1) 機械幅の調節

1. 機械幅をマルチフィルムの幅に合わせて、左右均等に調節します。  
下図は一般的なマルチフィルム幅 (950mm、1,350mm) の場合の参考寸法です。  
適宜、状況に合わせて調節してください。
2. 調節後、ノブボルト4本で前・後ビームとフレーム(左)(右)を固定します。



## (2) フィルムホルダーの調節

左右2箇所



**注意**

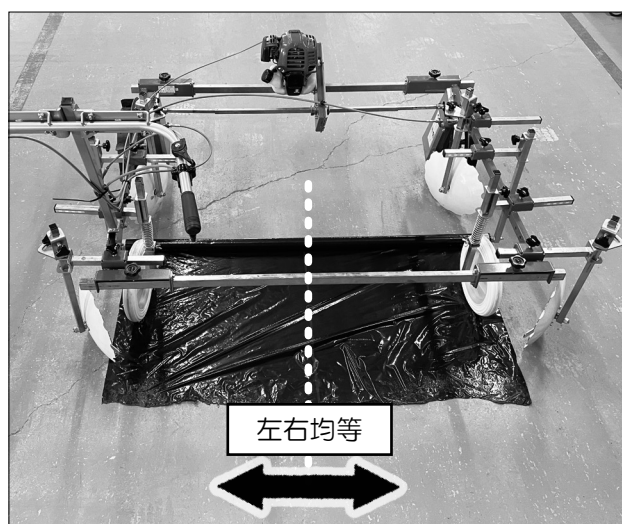
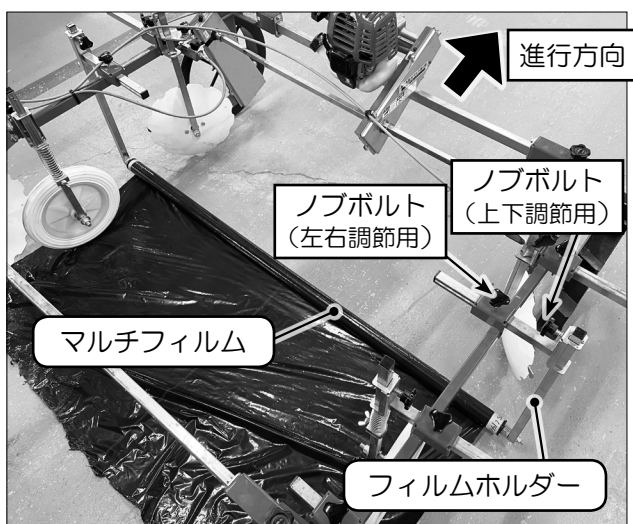
マルチフィルムを取り付ける場合、必ずエンジンを停止してください。怠ると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

**重要**

本機は、進行方向に対して後方にマルチフィルムを繰り出します。

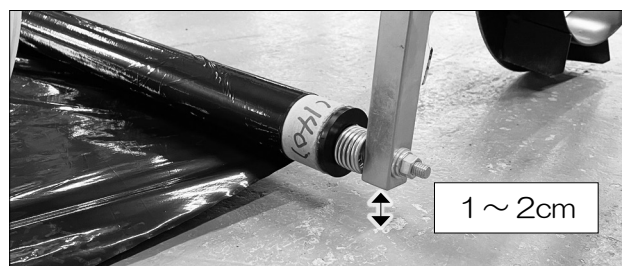
### 【取付方法】

1. 左右調節用のノブボルトをゆるめます。
2. マルチフィルムが左右均等になるようにフィルムホルダーに取り付けます。
3. ノブボルトをしっかり締め付けます。



### 【上下調節】

1. 上下調節用のノブボルトをゆるめます。
2. マルチフィルムの張り面から約1～2cm上になるように調節します。風の強い時は、できる限り張り面に近づけてください。
3. ノブボルトをしっかり締め付けます。



### 【交換方法】

1. 左右のノブボルトのどちらか一方をゆるめます。
2. ゆるめた側のフィルムホルダーを外側に引っ張り、マルチフィルムを外します。
3. 上記の【取付方法】に従い、新しいマルチフィルムを取り付けます。

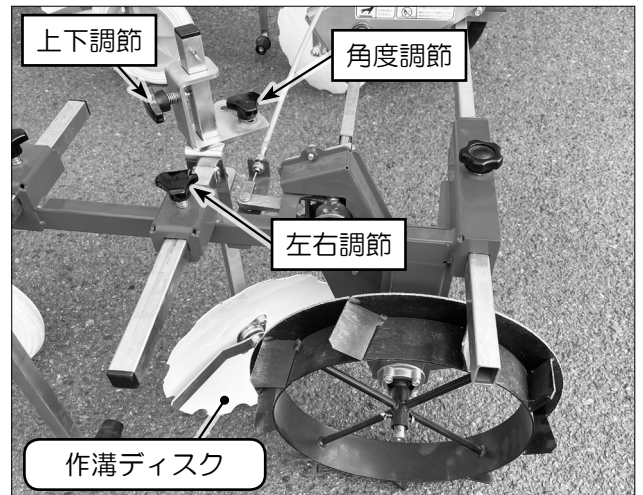


### (3) 作溝ディスクの調節

左右2箇所

ノブボルトをゆるめて左右・角度・上下を調節し、調節後はしっかり締め付けてください。

1. 左右・角度調節で、カットした土がマルチフィルムのすそにかかるようにします。
2. 上下調節は、張り面より適宜下げます。
3. ほ場の中で作業状況に合わせて調節してください。

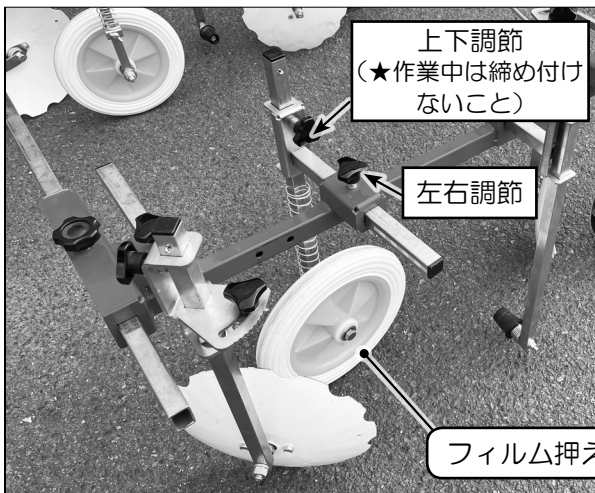


### (4) フィルム押え車輪の調節

左右2箇所

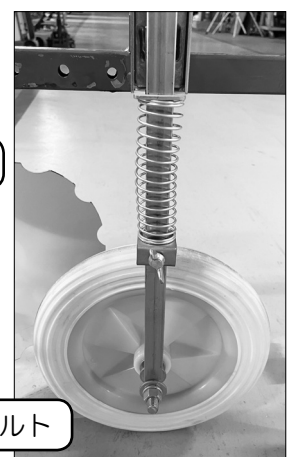
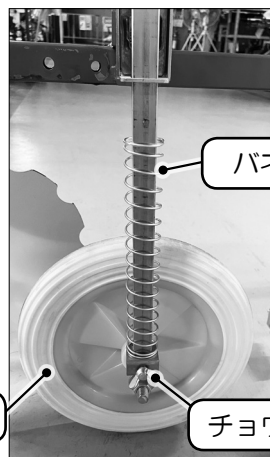
ノブボルトをゆるめて左右調節し、調節後はしっかり締め付けてください。

1. 左右調節は、フィルム押え車輪の先端が作溝ディスクの内側面と同一になるようにします。(10 ページの「準備作業」参照)
2. 上下調節のノブボルトをゆるめます。(※作業中は締め付けないでください。)
3. チョウボルトでバネ位置を調節し、マルチフィルムを押える力を調節します。



【押える力】弱

【押える力】強

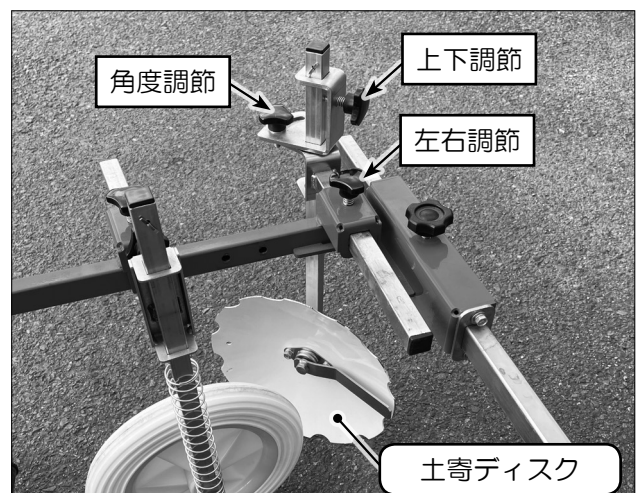


### (5) 土寄ディスクの調節

左右2箇所

ノブボルトをゆるめて左右・角度・上下を調節し、調節後はしっかり締め付けてください。

1. 角度調節でマルチフィルムにかける土の量を調整します。土を多くかける場合は、土寄ディスクの角度を広くします。
2. ほ場の中で土寄せの状態を見ながら、適宜、左右・角度・上下調節してください。

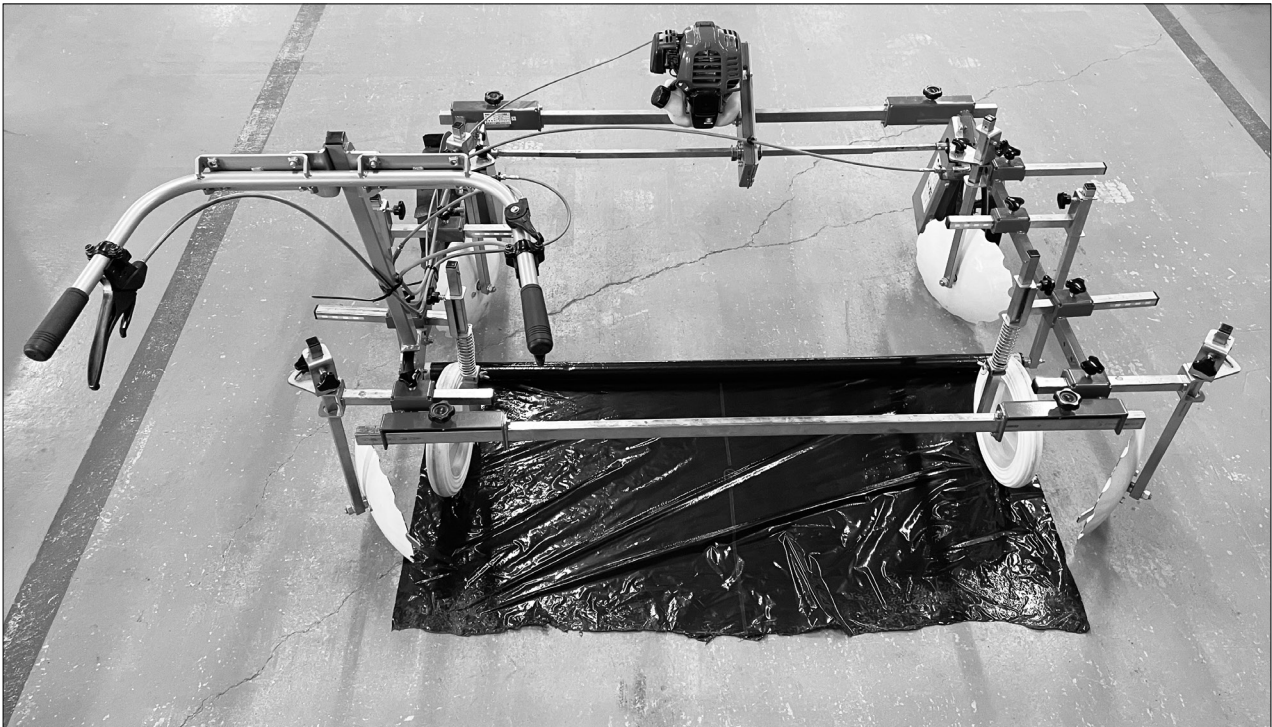


### 作業の手順

- ① 機械を作業する畝に移動し、ハンドルを進行方向に向けて設置します。
- ② マルチフィルムを引き出し、フィルムの端をフィルム押え車輪で押えます。
- ③ 左右のサイドクラッチレバーを「切」にします。(2ページ参照)
- ④ 周囲の安全を確かめて、エンジンをかけます。(9ページ参照)
- ⑤ 左右のサイドクラッチレバーを「入」にします。
- ⑥ スロットルレバーを操作して、マルチフィルム張りを開始します。(2ページ参照)
- ⑦ 畝の端にきた場合、スロットルレバーを「低」にしてサイドクラッチレバーを「切」にします。  
この時、左右の駆動車輪はフリーの状態になります。
- ⑧ マルチフィルムをカッターなどで切断します。(※刃物はおお客様でご準備ください。)
- ⑨ 機械を次の畝に移動して、①の手順から繰り返し作業をします。

#### **重要** 旋回時のポイント

- ・エンジンをかけた状態で旋回する時は、旋回したい側のサイドクラッチレバーを「切」にすると楽に旋回できます。



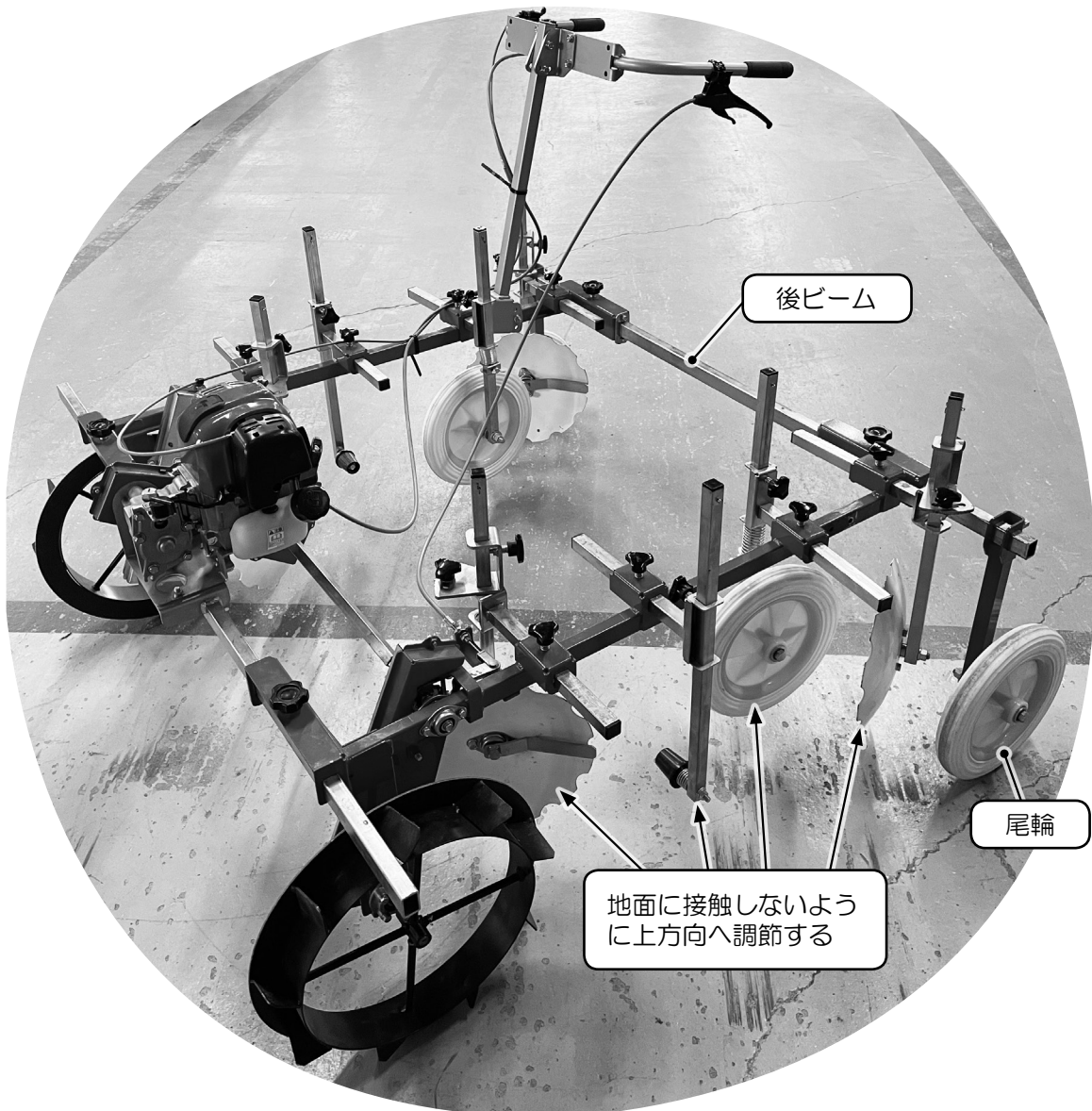
## 作業が終了したら

### 【運搬する時】

- ・ 作溝ディスク、フィルムホルダー、フィルム押え車輪、土寄ディスクが地面に接触しないように上方方向に調節します。
- ・ 運搬用の尾輪を後ビームの両側に差し込みます。

### 【保管する時】

- 作業終了後は、清掃して各部の点検をし、必要に応じて調整してください。
- 長期保管する場合は、機械が十分に冷えてから燃料タンクの燃料を抜き取ってください。
- 動き出したり転倒しないように、広い場所に安全に保管してください。



# 点検整備

## 警告

点検整備をするときは、次のことを守ってください。

- (1) 平たんな広い場所に置く。
- (2) エンジンを停止する。
- (3) エンジンなどの過熱部を十分冷やす。
- (4) 適正な工具や器具を使用する。
- (5) カバー類はきちんと元通りに取り付ける。

安全を確認しないで点検整備を行なうと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

## 点検整備一覧表

○点検    △清掃    ×調整・交換

点検・整備・給油項目		点検時期			備考	参照ページ
		毎日	10 時間	50 時間		
エンジン部	エンジンオイル	○		×	初回のみ 20 時間で交換 API 分類 SF 級以上の SAE10W-30	7
	点火プラグ		○			16
	エアークリーナ		△			16
	燃料フィルター			○	フィルターのつまり確認	17
駆動部	指定注油箇所	○		○	毎日	8
	減速ミッションオイル		○	×	ギヤーオイル# 90	7
	サイドクラッチワイヤー		○			17
	スロットルワイヤー		○			17

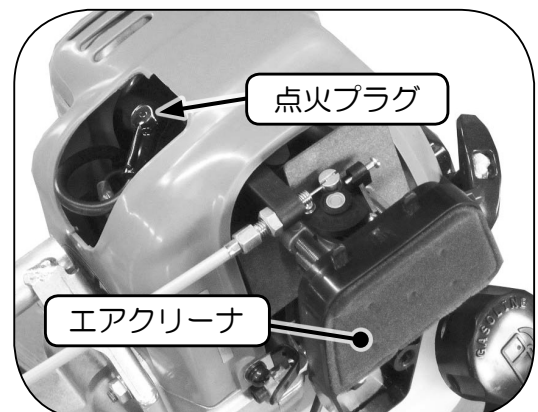
オイル交換などで出た廃油を投棄・焼却するなどみだりに処分しますと、水質汚濁、土壌汚染、大気汚染につながりますので、販売店や JA、またはガソリンスタンドにご相談ください。

## 点火プラグ・エアークリーナの点検

- ・ 点火プラグ、およびエアークリーナは、定期的に清掃してください。汚れると、エンジントラブルの原因となります。

《使用プラグ》

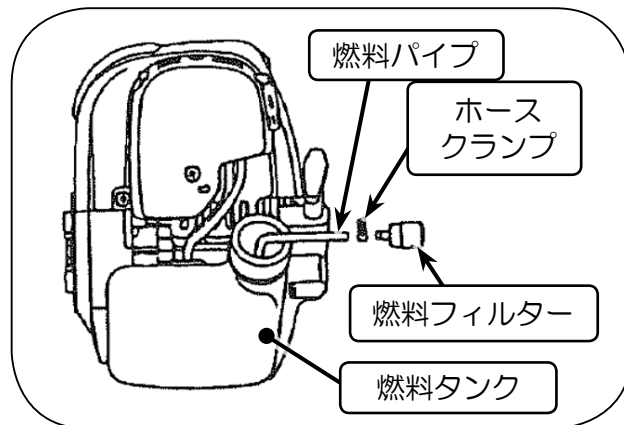
NGK CMR6A(M10 × P1.0) 相当品



## 燃料フィルターの点検

- 燃料タンク内の燃料パイプ先端についている燃料フィルターをパイプから引き抜き、洗浄します。同時に、燃料パイプにひび割れなどないか、確認します。
- 燃料フィルターの汚れがひどいものや、燃料パイプがひび割れているものは、交換してください。

(点検時期) 毎月1回か50時間運転ごと



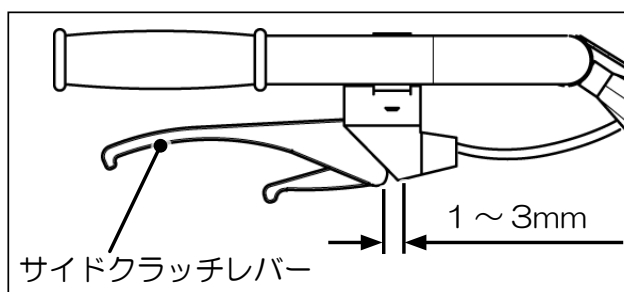
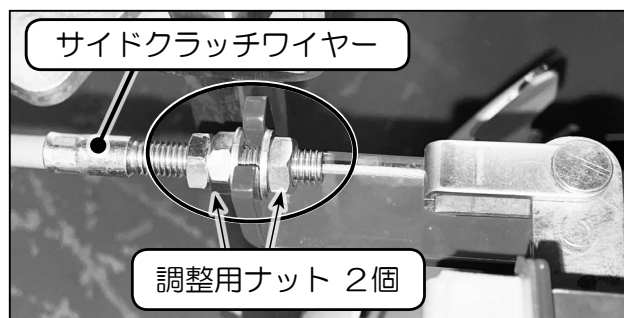
**注意**

燃料フィルター点検時はエンジンを停止し、十分冷えてから点検してください。これを怠るとやけどするおそれがあります。

## サイドクラッチワイヤーの点検

左右2箇所

- サイドクラッチレバーを「切」にした時、クラッチが完全に切れることを確認します。
- サイドクラッチレバーを「入」にした時、サイドクラッチレバーの遊びが1～3mm程度であることを確認します。調整は、右図の調整用ナットを回して行なってください。



**警告**

サイドクラッチワイヤーを調整する時は、必ずエンジンを停止してください。怠ると、急発進することがあり大変危険です。



**重要**

ワイヤーを張りすぎると、サイドクラッチレバーの操作が重くなります。

## スロットルワイヤーの点検

- スロットルレバーを操作して、正常に回転を上げ下げできるか確認します。
- 正常に回転が上がらない場合、アジャスターでワイヤーの張りを調節してください。



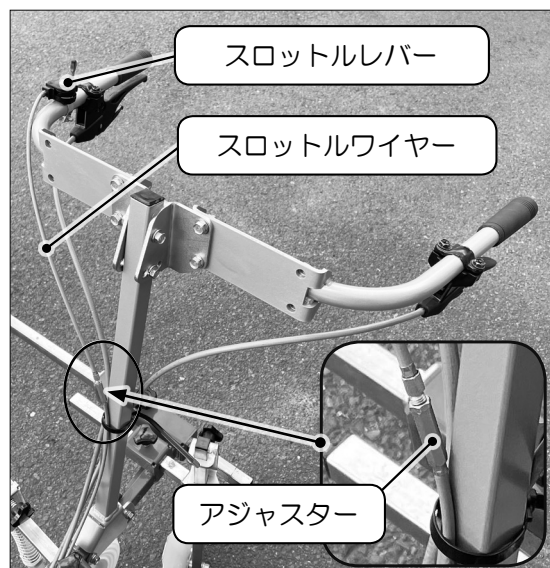
**警告**

スロットルワイヤーを調整する時は、必ずエンジンを停止してください。怠ると、急発進することがあり大変危険です。



**注意**

ワイヤーを張りすぎないでください。守らないと低速にしても走行が止まらなくなり、大変危険です。



# サービス資料

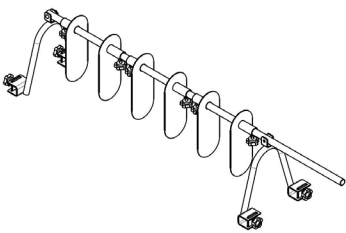
## 主要諸元

名 称	みのる 動力マルチ張り機	
型 式	MYD-1	
区 分	MYD-11A	
機体寸法	全 長 (mm)	1,340 ~ 1,520
	全 幅 (mm)	1,360 ~ 1,745
	全 高 (mm)	840 ~ 1,030
	重 量 (kg)	53
エンジン部	名 称	空冷4サイクルガソリン
	形 式	EH025
	総排気量 (cc)	24.5
	出力 / 回転数 (kW{PS} / rpm)	定格 0.5 {0.7} / 7,000
		最大 0.7 {1.0} / 7,000
	使用燃料	自動車用レギュラーガソリン
	燃料タンク容量 (L)	0.5
点火方式	無接点マグネト式点火	
始動方式	リコイル式	
車輪部	駆動車輪	鉄車輪 2 個
	フィルム押え車輪	発砲車輪 2 個
	尾 輪	発砲車輪 2 個
作 業 速 度 ( m / 秒 )		0.47
条 適 件 応	適応マルチフィルム幅 (mm)	950 ~ 1,350
	ほ 場	平畝
付 属 品		取扱説明書 (本書)、組立要領書、エンジン取扱説明書、保証書、プラグレンチ

※主要諸元・形体は改良のため予告なく変更する場合があります。

## オプション部品

オプションとして下記のを準備しておりますので、用途に応じてご購入の上、ご利用ください。ご購入に当たっては販売店にご相談の上、ご使用ください。なお、取り付けは必ず販売店で行ってください。

形 状	品 名	部品番号	備 考
	散水チューブ装置AY	MYD11-9400AY	散水チューブ装置AYを取り付けると、マルチフィルムの下に散水チューブを入れながらマルチフィルムを張ることができます。

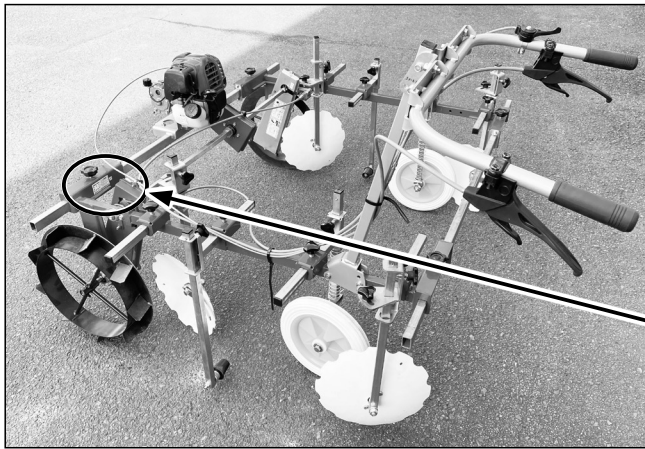
## 商品の保証

本製品には、保証書が添付されております。詳細は保証書をご覧ください。

## サービスネット

ご使用中の故障や不審な点およびサービスに関するご用命は、販売店にお気軽にご相談ください。その際、必ず以下（１）（２）の情報をご連絡ください。

- （１）区分       ： MYD - 11A
- （２）製造番号   ： 5桁の数字（※下図のマークに記載されています。）



農機具の種類	マルチ用機械	
型 式 名	MYD - 1	
区 分	MYD - 11	
製 造 番 号	※※※※※	
製造会社名	アール産業株式会社	

## 補修用部品供給期間

本機の補修用部品の供給期間は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給期間内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。



# みのる 産業株式会社

本 社 工 場 〒 709-0892 岡山県赤磐市下市 447  
TEL. (086)955-1123 (代) FAX. (086)955-5520

東 京 支 店 〒 337-0042 埼玉県さいたま市見沼区南中野 210  
TEL. (048)683-9451 (代) FAX. (048)683-9452

長 野 営 業 所 〒 389-1104 長野県長野市豊野町浅野 582-4  
TEL. (026)257-6530 (代) FAX. (026)257-6531

徳 島 営 業 所 〒 771-1151 徳島県徳島市応神町古川字東 197  
TEL. (088)641-2311 (代) FAX. (088)641-2324

九 州 支 店 〒 818-0066 福岡県筑紫野市大字永岡 1020-1  
TEL. (092)921-6006 (代) FAX. (092)921-6008

ホームページ <https://www.minoru-sangyo.co.jp>